

井戸端のある家

あたらしい和室=井戸端のような場がある住宅の提案

子育てを終えた夫婦二人のための住宅。

過疎化が進む市町村では、老人の二人暮らし又は配偶者を亡くし一人で大きな家に暮らす老人が多い。使わない部屋は冷たく暗く財産として引き継がれることなく廃墟になるケースも少なくない。

現代の住宅のプランニングでは、和室はリビングの一環、お洒落なスペースとして捉えられがちである。ゆえに冠婚葬祭を行うハレとケとしての空間が住宅からは失われてきている。地域のコミュニティからは離れて閉じた構造になってきている。

孫の初誕生や初節句を祖父母の家で、地域に対して開く文化はどうだろう。娘の銀婚式。夏のある日、蚊取り線香を炊いてスイカをかじるワンシーン。庭で取れた野菜をあげるよ、ばあちゃん。そんな雰囲気地域コミュニティに交わる家を提案したい。開かれることを前提とした、井戸端会議ができる新しい和室の使われ方を私たちは文化として持つべきである。

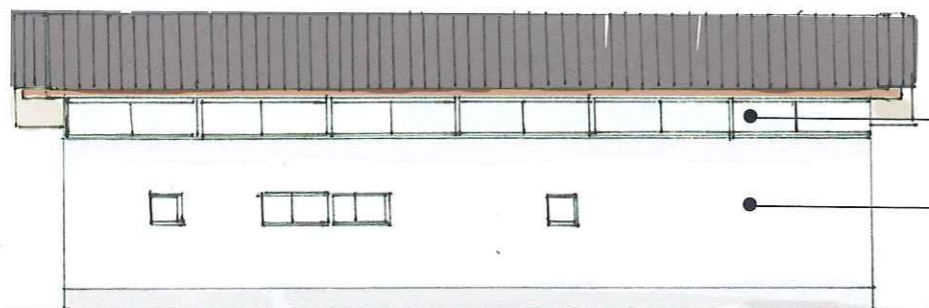


＜駐車場とアプローチを覆う大きな屋根＞
車は高齢者の生活に欠かせないものである。ゆったりと駐車できる。雨で濡れないということも毎日の生活のなかでストレスのため大切な要因である。

人が触れる外壁は、漆喰塗りとし、あたたかな雰囲気をつくる。

人を迎え入れる部分にはあたたかな無垢のルーバーを採用。1年ごとに塗り替える。平屋なのでメンテナンスが容易である。

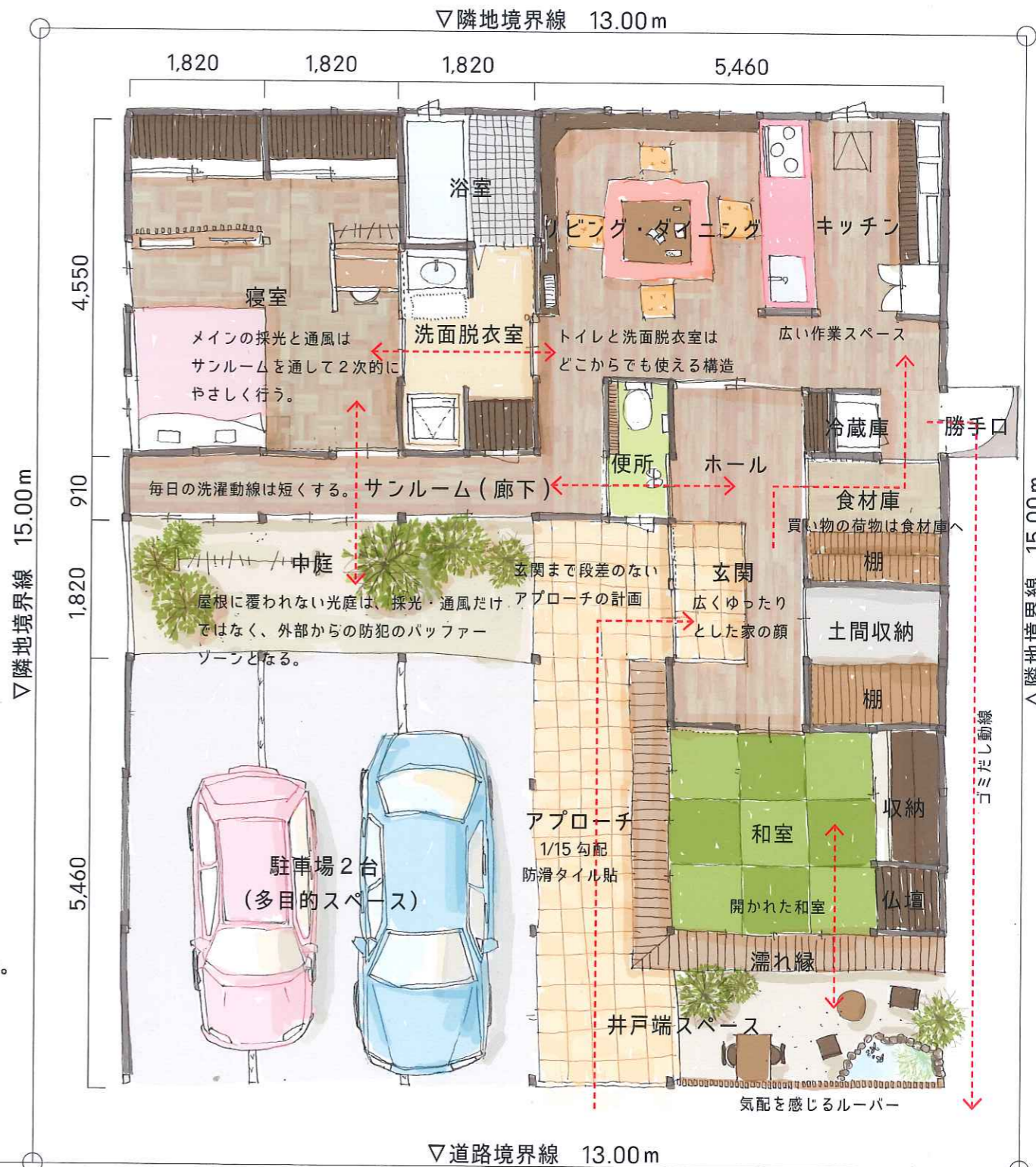
南立面図 1/50



北側採光で、年中リビングと寝室は暗くならない。

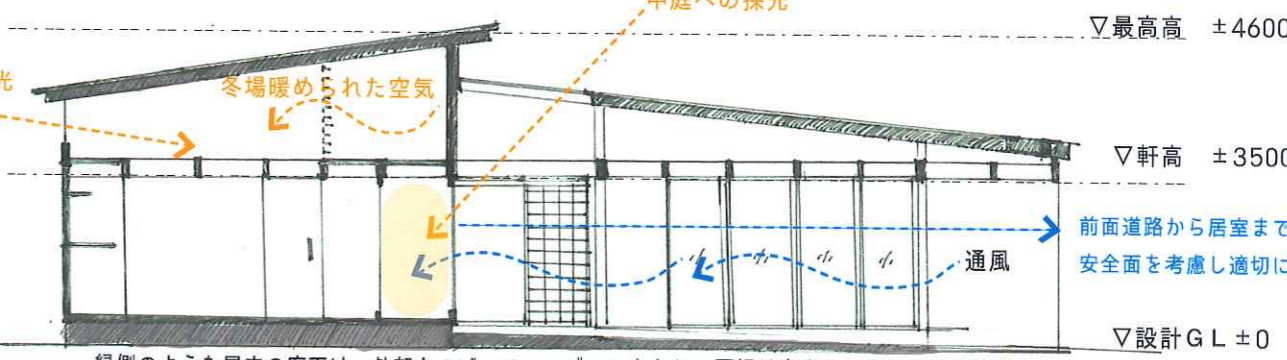
外壁廻りは窯業系サイディングとしメンテナンスが容易なものとする。

北立面図 1/50



▽道路境界線 13.00m

断面図 1/50



縁側のような屋内の廊下は、外部とのバッファゾーンとなり、夏場は室内への直射日光を遮り冬場は暖められた空気を屋根裏に逃がし、室内に発散させる。

想定敷地：都市計画区域内 第1種住居地域 法第22条地域 建蔽率60% 容積率200%
敷地面積：間口13.0m × 奥行15.0m = 195㎡ 延べ床面積：99.37㎡
前面道路：開発道路6m 都市部の分譲地をモデルとし平坦な敷地とする。

▽最高高 ±4600

▽軒高 ±3500

▽設計GL ±0